

H28－No.8

平成 28 年 10 月 26 日発行
三刀屋高校図書館

図書館だより



読書週間がやってきたー！たまには本も読んでみようよ♡

朝晩が冷え、夜が長くなってきました。読書の秋本番です。そして、27日から読書週間が始まります。今年の標語のように、「いざ、読書」です。普段読書をしない人も気合を入れて本を手にとってみませんか。本をめくっていると、知らなかったことや、自分の好奇心に気が付きますよ。この時期特にイベントもしますので、本に親しんでもらえるとうれしいです。by 司書

小論文対策コーナーの新入り本（ブックトラック 小論C）

第一小論 Net 小論文上達への道「分野別推薦図書」は**生活・社会、環境、国際化・異文化理解、日本語・日本人、教育、福祉、政治・経済、情報・メディア、科学技術、医療・看護、心理・思想・哲学**のテーマ別に本が紹介されています。今回大幅に本が入れ替わりました。新しい本も入りましたので、この機会にオススメ本から、しっかり知識をキャッチしてくださいね。

小論文対策は 3 年生だけにあらず！1 年生から始めよう！

課題研究や地域産業研究、職業に関することに大きく関係しています。早いうちから目的意識を持って読むことをおすすめします。

そして読んだら読書記録をつけておきましょう。そうすれば、立派なネタ帳となってきっとあなたを助けます。

読書記録の用紙や「読みメン手帳」は図書館にあります。利用してください。

小論文の書き方は『図書館からはじめる「学び」のガイド』に載っています。

【心理・思想・哲学】

146-キ 嫌われる勇氣 自己啓発の源流「アドラー」の教え

岸見一郎, 古賀史健 著 ダイヤモンド社

本書は、フロイト、ユングと並び「心理学の三大巨頭」と称される、アルフレッド・アドラーの思想（アドラー心理学）を、「青年と哲人の対話篇」という物語形式を用いてまとめた一冊です。欧米で絶大な支持を誇るアドラー心理学は、「どうすれば人は幸せに生きることができるか」という哲学的な問いに、きわめてシンプルかつ具体的な“答え”を提示します。この世界のひとつ

の真理とも言うべき、アドラーの思想を知って、あなたのこれからの人生はどう変わるのか？もしくは、なにも変わらないのか…。さあ、青年と共に「扉」の先へと進みましょう。

490-カ 人間をみつめて

神谷美恵子 著 河出書房新社

ハンセン病療養所での治療体験から、人間の真実の姿を見つめた精神科医の魂の記録。大きな活字の新書版。

491-ヤ 「わかる」とはどういうことか 認識の脳科学

山鳥重 著 筑摩書房

われわれは、どんなときに「あ、わかった」「わけがわからない」「腑に落ちた！」などと感じるのだろうか。また「わかった」途端に快感が生じたりする。そのとき、脳ではなにが起こっているのか―脳の高次機能障害の臨床医である著者が、自身の経験（心像・知識・記憶）を総動員して、ヒトの認識のメカニズムを、きわめて平明に解き明かす刺激的な試み。

914-イ 選ぶ力

五木寛之 著 文藝春秋

情報が氾濫する現代において、日常の一枚コマから、将来を左右する大きな決断まで、選択なしに世は渡れない。明日が見えない不安の時代だからこそ、悔いなき日々を過ごすには？東洋思想にくわしいベストセー

今年も読書週間がやってきた！

10 月 27 日～11 月 9 日

今年の標語は

「いざ、読書」

読書週間は戦後まもない 1947 年に「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と図書館、新聞や放送のマスコミも一緒になり、アメリカの「チルドレンズ・ブック・ウィーク」にならって始まった。翌年から今の期間（文化の日をはさんで 2 週間）となり、講演会や本に関する展示会などイベントが行われるようになった。現在、「読書週間」は日本中に広がり、日本は世界でも特に「本を読む国民」の国となった。【読書推進運動協議会 HP より】

ー作家による珠玉の実践的ヒント。

914-ソ 人間にとって成熟とは何か

曾野綾子 著 幻冬舎

人はみな平等に年を取るが、しだいに人生がおもしろくなる人と、不平不満だけが募る人がいる。両者の違いはいったい何か。「憎む相手からも人は学べる」「諦めることも一つの成熟」「礼を言ってもらいたいくらいなら、何もしてやらない」「他人を理解することはできない」「人間の心は矛盾を持つ」「正しいことだけをして生きることはできない」等々、世知辛い世の中を自分らしく生き抜くコツを提言。まわりに振り回され、自分を見失いがちな人に贈る一冊

【国際化・異文化理解】

209-イ 歴史家が見る現代世界

入江昭 著 講談社

いつから「現代」になったのか？それは「近代」と何が違うか？わかりやすい国単

位の歴史に惑わされて、地球規模で進行する大きなうねりを見逃してはならないー世界の今とこれからを考えるための必読書！私たちはどんな時代を生きているか。

311-ラ 国家とアイデンティティを問う

C.ダグラス・ラミス, 姜尚中, 萱野稔人 著 岩波書店

グローバル化のもと、国籍、戸籍、言語といった国家のメンバーシップをめぐる境

手づくり POP コンテスト投票券

No.

年 組氏名

（投票は 1 1 / 2 9 まで）

2 8 年古雑誌市 引き換え券

1 1 月 9 日(水)

昼休み&放課後

1 枚で 3 冊まで

♡ 図書委員会が企画した読書週間イベント ♡

その 1 恒例の手づくり POP コンテスト

その 2 恒例の古雑誌市は 1 1 月 9 日(水曜日)昼休みと放課後

詳しくは各クラスの掲示されたポスターを見たり、図書委員にお尋ねください。

POP コンテストは 11 月末までの企画ですので、焦らず作品を応募したり、投票したり、どうぞ気長に参加してください。

古雑誌市に出る雑誌は、

オレンジページ、Number、What'sIN、MOE、ナショナルジオグラフィック、non-no

の H27 年 7 月から 2 8 年 6 月までに出版された号が対象です。

界がアイデンティティをめぐるってどのような政治力学を形成するのか。国民国家が様々にもたらす排除と包摂をテーマに、現

代日本に生きる二人の「外国人」政治学者と気鋭の哲学者が、それぞれの視座からナショナリズムに切り込む白熱の議論。

376-サ イギリスのいい子日本のいい子 自己主張とがまんの教育学

佐藤淑子 著 中央公論新社

優しい子に育ててほしいけれど、自分の意見を言えないようでは困る。自分の意志を持ってほしいけれど、わがままなのはだめ。子どもが育つとき、自己主張と自己抑制が共にできることが大切なのはわかっていてもそのバランスは難しい。両者を等しく重視するイギリスと、自己抑制を尊重しがちな日本を比較教育学を用いて比べながら、子どもたちはどうやってこれらを身につけていくのか、親はそのためにどうすべきかを探る。

801-イ ことばと思考

今井むつみ 著 岩波書店

私たちは、ことばを通して世界を見たり、ものごとを考えたりする。では、異なる言語を話す日本人と外国人では、認識や思考のあり方は異なるのだろうか。「前・後・左・右」のない言語の位置表現、ことばの獲得が子どもの思考に与える影響など、興味深い調査・実験の成果をふんだんに紹介し

ながら、認知心理学の立場から明らかにする。

【政治・経済】

311-ス 政治的思考

杉田敦 著 岩波書店

政治への不信感が高まる今こそ、政治をどうとらえ、いかにそれとかがかわるかが問われている。決定・代表・討議・権力・自由・社会・限界・距離という八つのテーマにそくして、政治という営みの困難と可能性とを根本から考えていく。私たちの常識的な見方や考え方を揺さぶり、政治への向き合い方を問う全八章。

331-イ 経済学に何ができるか 文明社会の制度的枠組み

猪木武徳 著 中央公論新社

さまざまな「価値」がぶつかり合う、現代の自由社会。その結果、数々の難問が私たちの前に立ちはだかっている。金融危機、中央銀行のあり方、格差と貧困、知的独占の功罪、自由と平等のバランス、そして人間にとって正義とは、幸福とは一。本書は、経済学の基本的な論理を解説しながら、問題の本質に迫る。鍵を握るのは「制度」の役割である。デモクラシーのもとにおける経済学の可能性と限界を問い直す試み。



28年古雑誌市 引き換え券



332-ニ 新・世界経済入門 西川潤 著 岩波書店

米国発の金融・経済危機、それに続く国家債務危機……。世界経済はますます混迷の度を深めている。いま世界で、何が、なぜ起き、今後どうなっていくのか？1988年に刊行後、最新データと丁寧なキーワード解説を入れて、10年ぶりに登場。

【日本語・日本人】 361-ウ 日本辺境論

内田樹 著 新潮社
日本人とは辺境人である―「日本人とは何ものか」という大きな問いに、著者は正面から答える。常にどこかに「世界の中心」を必要とする辺境の民、それが日本人なのだ、と。日露戦争から太平洋戦争までは、辺境人が自らの特性を忘れた特異な時期だった。丸山眞男、澤庵、武士道から水戸黄門、養老孟司、マンガまで、多様なテーマを自在に扱いつつ日本を論じる。読み出したら止らない、日本論の金字塔、ここに誕生。

810-ヤ 日本語の歴史 山口仲美 著 岩波書店

現代の日本語はどのようにして出来上がってきたのだろうか。やまとことばと漢字との出会い、日本語文の誕生、係り結びはなぜ消えたか、江戸言葉の登場、言文一致体を生み出すための苦闘…。「話し言葉」と「書き言葉」のせめぎあいからとらえた日本語の歴史。誰にでも納得のいくように、めりはりの利いた語り口で、今、説き明かされる。

【教育】 367-カ 子どもが育つ条件 家族心理学から考える

柏木恵子 著 岩波書店
自己肯定感の低下、コミュニケーション不全の高まりなど、子どもの「育ち」をめぐる、様々な“異変”が起きている。一方、子育てのストレスから、虐待や育児放棄に走る親も目立つ。こうした問題の要因を、家族関係の変化や、親と子の心理の変化に注目して読み解き、親と子ども双方が

手づくり POP コンテスト投票券



育ちあえる社会の有り様を考える。

370-ウ 街場の教育論
内田樹 著 ミシマ社
「他者とコラボレーションする能力」の涵養こそ喫緊の課題。学校、教師、親、仕事、宗教…あらゆる教育のとらえ方がまるで変わる、驚愕・感動の11講義。

373-コ 学力幻想
小玉重夫 著 筑摩書房
「ゆとり教育」は学力の低下や格差を招いたとして多くの批判にさらされた。だが歴史的に見れば、そうした教育政策の揺り戻しは、幾度となく繰り返されてきたお決まりの対立図式にすぎない。このような構図の背景にあるのが、私たちの学力なるものへの過剰なとらわれであり、「子ども中心主義」と「ポピュリズム」という二つの罠である。本書は、教育論議を呪縛する「学力幻想」を、その思想的背景を掘り下げることで相対化し、教育問題への新しいアプローチを提示する試みである。

【科学・技術】
404-モ 科学的とはどういう意味か
森博嗣 著 幻冬舎
科学―誰もが知る言葉だが、それが何かを明確に答えられる人は少ない。しばしば「自然の猛威の前で人間は無力だ」という。これは油断への訓誡としては正しい。しかし自然の猛威から生命を守ることは可能だし、それができるのは科学や技術しかない。また「発展しすぎた科学が環境を破壊し、人間は真の幸せを見失った」ともいう。だが環境破壊の原因は科学でなく経済である。俗説や古い、オカルトなど非科学が横行し、理数離れが進む中、もはや科学は好き嫌いでは語れない。個人レベルの「身を守る力」としての科学的な知識や考え方と何か一。

481-モ ソウの時間ネズミの時間
サイズの生物学
本川達雄 著 中央公論社
動物のサイズが違くと機敏さが違い、寿命が違い、総じて時間の流れる速さが違ってくる。行動圏も生息密度も、サイズと一定の関係がある。

ところが一生の間に心臓が打つ総数や体重あたりの総エネルギー使用量は、サイズによらず同じなのである。本書はサイズからの発想によって動物のデザインを発見し、その動物のよって立つ論理を人間に理解可能なものにする新しい生物学入門書であり、かつ人類の将来に貴重なヒントを提供する。

543-コ 原発のウソ
小出裕章 著 扶桑社
“安全な被曝量”は存在しない！原発を全部止めても電力は足りる、福島第一は今後どうなるのか？危険性を訴えて続けて40年“不屈の研究者”が警告する原発の恐怖。

【医療・看護】
460-フ 動的平衡 生命はなぜそこに宿るのか
福岡伸一 著 木楽舎
生命とは、絶え間ない流れの中にある動的なものである。読んだら世界がちがって見える。哲学する分子生物学者が問う「命の不思議」。今まで体験したことのないサイエンス・ストーリー。

【環境】652-タ 森林異変
日本の林業に未来はあるか
田中淳夫 著 平凡社
21世紀に入り、日本の森は一大転換期にある。国産材の需要が高まる中、現場には大型機械が導入され、100ヘクタール以上の大規模な伐採も行われている。しかし造林がなされず、荒地となった林地も少なくない。さらに林業従事者の減少と高齢化に歯止めがかからず、これで打ち止めにするための伐採も散見される。国際森林年を契機として、山の人も街の人も、日本の森の未来をじっくりと考えてみよう。

【生活・社会】
304-テ 豊かさとは何か
暉峻淑子 著 岩波書店
モノとカネがあふれる世界一の金持ち国・日本。だが一方では、環境破壊、過労死、受験競争、老後の不安など深刻な現象にこと欠かず、国民にはゆとりも豊かさの実感もない。日本は豊かさへの道を踏みまちがえた、と考える著者が、西ドイツでの在住体験と対比させながら、日本人の生活のあり方を点検し、真に豊かな社会への道をさぐる。

361-ヤ 限界集落の真実
過疎の村は消えるか？
山下祐介 著 筑摩書房
高齢化が進み、いずれ消滅に至るとされる「限界集落」。だが危機を煽る報道がなされているのに、実際に消滅した村はほとんどない。そこには逆に「限界集落」という名付けをしたことによる自己予言成就―ありもしない危機が実際に起きる―という罠すら潜んでいる。カネの次元、ハードをいかに整備するかに問題を矮小化してきた、これまでの過疎対策の責任は重い。ソフトの問題、とりわけ世代間継承や家族の問題を見据え、真に持続可能な豊かな日本の地域社会を構想する。

＊新着図書案内＊
分類、書名、著者名、出版社、内容の順 ☆はリクエスト

378-ユ 0歳～6歳子どもの社会性の発達と保育の本
湯汲英史 著 学研教育出版 学研マーケティング（発売）
社会性が未熟な子どもの姿に悩む、保育者のための本。愛着形成、感情の育ちと共感、自我の育ち、自立に向けて、言葉の育ちなどをテーマごとに解説。乳児期から幼児期にかけてどう育っていくのか見通しがわかるようにした「縦の解説」がポイント。

☆913-ユ-1 ギルティクラウン レクイエム・スコア 1 ゆうきりん [著] 徳間書店
2039年、無政府状態となり“GHQ”の統治下にある日本。そんな日本をGHQの支配から解放する、という理念を持つ組織「葬儀社」のリーダー恙神涯は、とあるシリンドーを強奪する作戦を決行する。実行は『エゴイスト』の歌姫でもある少女、楳いのり。任務遂行中、負傷してしまったいのりは、傷を癒すため立ち寄った場所で『桜満集』という少年と出会うー。

☆913-ユ-2 ギルティクラウン レクイエム・スコア 2 ゆうきりん [著] 徳間書店
人の心を具現化した武器“ヴォイド”で戦う集は『葬儀社』の一員として、地上攻撃衛星ルーカサイト攻略に成功。しかし、その戦いでかなりの戦力を失った。資金や物資補充のため葬儀社のリーダー・涯が目をつけたのは、日本屈指の大企業・供奉院

673-ア 商店街はなぜ滅びるのか
社会・政治・経済史から探る再生の道
新雅史 著 光文社
極めて近代的な存在である商店街は、どういう理由で発明され、そして、繁栄し、衰退したのか？よく言われるように、郊外型ショッピングモールの乱立だけが、商店街衰退の原因なのか？さらに、地域コミュニティの要となる商店街の再生には、どういう政策が必要なのか？膨大な資料をもとに解き明かす、気鋭の社会学者による画期的な論考。

グループとその孫娘・亞里沙のヴォイドだった。日本の独立を掲げた供奉院主催の船上パーティに潜入した涯は、供奉院館に交渉を始める。そのとき、一緒に潜入していた集の元にGHQのミサイルがこの船を狙っているとの一報が入った。

☆913-ユ-3 ギルティクラウン レクイエム・スコア 3 ゆうきりん [著] 徳間書店
真名の復活、涯との別れ―あれから二週間が過ぎた。アポカリプスウィルス大感染のため都心の一部が隔離された。ライフラインは途絶え、東京各地で避難所生活が始まる。天王洲第一高校には自然と生徒たちが集まった。葬儀社の仲間たちはバラバラになってしまったため、集やいのり、ツグミや綾瀬も学校で避難所生活を送っていた。しかし生徒たちの間で、このまま学校から出られないのでは、と混乱が発生。そんなときGHQのエンドレイヴが学校を襲撃してきた。

☆913-ユ-4 ギルティクラウン レクイエム・スコア 4 ゆうきりん [著] 徳間書店
死んだはずの戦友が、涯が、敵として立ちあはだかっている。一天王洲第一高校にて“王”となった集。しかし人を物のように扱っていた報いなのか、涯に右腕を切り落とされ、『王の力』を奪われ、仲間に裏切られ…。自失した集を連れて逃亡を始めるいのり。そして、涯は全世界に告げる。「お前たちの命はすでに俺の手に落ちた」集たちの敵となった涯の真意と集の選んだ結末は？